

2026年6月12日

各位

会社名 株式会社 g u m i  
 代表者名 代表取締役社長 川 本 寛 之  
 (コード番号: 3903 東証プライム市場)  
 問合せ先 取締役本吉 誠  
 (TEL. 03-5358-5322)

## 2026年4月期連結及び個別業績と前期実績値の差異に関するお知らせ

当社は、2026年4月期連結及び個別業績と前期実績との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 連結業績と前期実績の差異

##### (1) 2026年4月期連結業績と前期実績の差異

(2025年5月1日～2026年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前期実績(A)	百万円 8,942	百万円 370	百万円 2,103	百万円 2,063	円 銭 43.50
当期実績(B)	9,183	83	2,170	1,454	28.46
増減額(B-A)	241	△287	66	△608	△15.04
増減率(%)	2.7%	—	—	—	—

##### (2) 差異の理由

差異の詳細については、以下に記載のとおりです。

###### ① 売上高について

モバイルオンラインゲーム事業に関しては、不採算タイトルの早期撤退、一部タイトルの他社への運営移管、および連結子会社であった株式会社エイリムの株式譲渡などの構造改革による影響があったものの、新規タイトル「ジョジョの奇妙な冒険 オラオラオーバードライブ（以下、「オラドラ」）」を配信開始したことを主因として、前年同期比で552百万円の増収となりました。

ブロックチェーン等事業に関しては、エンターテインメント領域においては、配信中の一部タイトルにて運用期間の経過に伴う減収があったものの、暗号資産の受領に伴う売上計上が寄与した結果、前年同期比で増収となりました。アセットマネジメント領域においては、暗号資産マーケットが軟調に推移したことに伴う保有暗号資産の価格下落等の影響を受け、前年同期比で減収となりました。

これらの結果、売上高は前期実績を241百万円上回り、9,183百万円となりました。

###### ② 営業利益について

モバイルオンラインゲーム事業に関しては、コスト構造の最適化を継続的に実施しているものの、「オラドラ」の配信前後におけるプロモーション強化に伴う一時的な広告宣伝費の増加等により、営業利益は前期実績を350百万円下回り、△469百万円となりました。

ブロックチェーン等事業に関しては、ゲーム開発及び運用コストの最適化など、採算性を重視した効率的な体制構築に努めた結果、営業利益は前期実績を63百万円上回り、552百万円となりまし

た。

この結果、営業利益は前期実績を287百万円下回り、83百万円となりました。

③ 経常利益について

営業利益が83百万円となったことに加え、保有する一部暗号資産の時価上昇に伴う暗号資産評価益を2,632百万円計上したこと、及びその他営業外損益も勘案した結果、経常利益は前期実績を66百万円上回り、2,170百万円となりました。

④ 親会社株主に帰属する当期純利益について

経常利益が2,170百万円となったことに加え、減損損失その他特別損益、法人税、住民税及び事業税の計上を勘案した結果、当期純利益は前期実績を608百万円下回り、1,454百万円となりました。

2. 個別業績と前期実績の差異

(1) 2026年4月期個別業績と前期実績の差異

(2025年5月1日～2026年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	百万円 8,859	百万円 △675	百万円 △19	百万円 △289	円 銭 △6.10
当期実績 (B)	9,527	49	382	△407	△7.96
増減額 (B-A)	668	724	401	△117	△1.86
増減率 (%)	7.5%	—	—	—	—

(2) 差異の理由

差異の詳細については、以下に記載のとおりです。

① 売上高について

売上高につきましては、モバイルオンラインゲーム事業においては既存タイトルの安定運用及び新規タイトルの配信を開始し、ブロックチェーン等事業においては、エンターテインメント領域及び金融領域における各種施策を推進いたしました。

この結果、売上高は前期実績を668百万円上回り、9,527百万円となりました。

② 営業利益について

営業利益につきましては、売上高の増加に伴い、前年の営業損失から黒字転換いたしました。

この結果、営業利益は前期実績を724百万円上回り、49百万円となりました。

③ 経常利益について

営業利益が49百万円となったことに加え、保有する一部暗号資産の時価上昇に伴う暗号資産評価益を計上したこと、及びその他営業外損益も勘案した結果、経常利益は前期実績を401百万円上回り、382百万円となりました。

④ 当期純利益について

経常利益が382百万円となったことに加え、資産計上しておりました一部タイトルに係るソフトウェアについて減損損失等の計上を勘案した結果、当期純利益は前期実績を117百万円下回り、△407百万円となりました。

以上